



藤原 徹平

建築家 / 横浜国立大学大学院 Y-GSA 准教授

最初に卒業設計の総評をいただいて、かつ印象に残った作品について何点かお話を伺えたらなと思っております。その後、学年全体に対するコメントや印象などをお聞きしたいと思います。

藤原：総評ですか。全体として、面白かった印象がある。多様性があるというか、それぞれの興味が色々あって。去年も感じたんですけど、今年も多様性を感じました。

正林：去年との違いなどは…？

藤原：去年の人たちはずいぶん仲良かったよね。卒業設計をやっている時はわからなかったけどその後の卒業設計の本とか作っている

のを見て、学年のまとまりがあるんだなって。意外とそういうって展示会とか本とか作ってみたいと見えてこないもので、やっている最中はわからないんだよね。どうい横のつながりが支え合っているとか。

チームワークって建築でとても重要だから、一個一個の作品よりも終わった後にみんなで何かまとめるってことで、みんなの集団力って言うのかな、リーダーシップ取れる人がいたり、助け合える人がいたり、あるいはうまく仲間に引き込めるような、巻き込みの力があつたりとかね。それはみんなにとって今後の人生では大事になることじゃないかな。

個別の作品以上にそういう方が社会人として生きていく上では重要かもしれないね。去年の人たちはそういう部分がしっかりしていて感

心しました。

正林：まさしく僕らも今その真っ只中です。いきなり総評と言われても答えにくいと思うので、印象に残っている作品を教えてください。

藤原：僕はみんなに近い立場だから、どの作品も印象には残ってるよね。逆に印象に残っていないものがないくらいの感じだけ。

正林：藤原さんが票を入れたのって確か河野さんと…。

藤原：僕は、河野さんと榊原さんですね。他にもいいと思ったのも結構ありました。コンセプトは大概のものは良かったかな。コンセプトで共感しなかったもの自体がほとんどないくらいかな。面白いものが多かったよね。真面目な人もいるし、もうちょっとコンセプトチュアルな人もいるし、大きくバリエーションに富んでいますね。

高橋：コンセプトから建築の提案を作っていく過程の中で、コンセプトはうまく設定できたけれどなかなか建築にならなくて…ということが僕らの話の中で出てきました。そのような悩みは最終成果物にも現れたと思うのですが、その点についてはどう思いますか？

藤原：どうかな。一番悩みを感じたのは寺西さんとかかな。寺西さんは4年前期の時に、「街全体を庭としてとらえる」という相当面白いコンセプトにたどり着いていたんだけど、本人が最後までその面白さを分かり切れていないというのはあるかもね。その思考をしていくと、それがどういう姿になり得るかっていうのが、まだ寺西さんの中でしっくりきていないというか、見えていないのかな。結局4年前期にやったものを超えられないまま最後まで来ているような感じがしますね。でも相当面白いものをつかみつああるわけだから、必死に深めていけばいいんだろうなと思います。

正林：この一年を通してジャンプアップしたというか、前期から比べて成長したとを感じる人はいますか？

藤原：榊原さんはね、頑張ったと思います。びっくりしましたね。最後よくあそこまでがんばったと思います。あと合掌造りの東野さんとかも頑張ったね。ジャンプということで。あと宮本くんや河野さんとか。ただもちろん、寺西さんみたいに停滞していたからといって成長していない訳じゃなくて、内側で考えていることはたくさんあるから、それがいつかジャンプするっていうのはあると思うかな。あと、上田くんも成長したね。卒業設計のタイミングでジャンプアップのタイミングが来ない人もいるからね。石川くんもちょっと惜しいかな、でも卒業設計は今まで彼が作ったものの中で一番面白かった。

『いつまでも、この街は私の実家』河野美紀→p60

『守り・つなぐ・山』榊原真歩→p192

『まちの文化と記憶を紡ぐ庭園』寺西遥夏→p20

『集落を雪田う』東野有希→p154

『歴史を共にする新たな広島風景』宮本皓章→p146

『中洲』上田成夢→p36

『都市に残る地形と運動の建築』石川泰成→p200

今年はコロナ禍という特殊な状況でやった卒業設計ですけど、それについて抱いた印象などはありますか？

藤原：コロナの影響はあまり感じなかったかな。良くも悪くもいつも通りな感じがしたかな。もっと内向的な案が出てきてもおかしくなかったけど、そういう感じはなかったね。それは意外だったな。昨日たまたま仙台の日本一決定戦の審査をしてきたけど、相当内向的なものがたくさんあって面白かったよ。

正林：今、仙台のお話が出たのでお聞きしたいのですが、横国のカラーと他大のカラーについてどうお考えですか。

藤原：他大って言うよりか、仙台は全国から集まるから、大学と関係がないっていうのかな。言いたいことがある人が集まる。評価を待つんじゃないってのが、言いたいことがあるっていうのがすごいこと。そういうエネルギーっていうのは感じたね。物申すって感じ(笑)そういう物申す感じを横国の学生はあまり出さないから、仙台は新鮮でいいなとは思ったね。受け身じゃないってのが。学生が言いたいことがあるっていうのがすごくいいし、こっちも普通の講評とは違う気持ちで見られた。学内ってことだけを意識していると、学内のクライテリアがあるじゃない？それに自分が合わせちゃう。ある意味受け身になる弱さがあるよね。免疫がないっていうか。それはちょっと気がつけた方がいいかもね。

ここ10年くらいで建築家になった人っていうのは、横国だと例えば、403の人たちとか富永美保さんとかだけど、富永さんも仙台日本一だし、403とかは仙台とかに出すタイプではなかったけど、しかしやっぱり学内のクライテリアに興味がない人たちでもあったよ。藤村龍至さんの活動とかにどんどん参加していた。Y-GSAの中で山本理顕さんが何を言おうと関係ないというか、北山恒さんが何を言おうとも自分たちの考えがあるっていうような人たちだったかな。

中川エリカさんはそれよりちょっと前の卒業生で、Y-GSAの前の大学院に落ちて、藝大にいて修士設計をやって、で西田司くんのところに行ったんだけど。彼女には独特のクライテリアがあるっていうか、藝大でも横国でもないっていう。そういうのはやっぱりあったよね。

横浜国大はほんとに講評会が贅沢っていうか、すごい建築家がたくさん来てみんなが思ってもいないようなこともちゃんと拾ってくれる。ほんとに丁寧にコンセプトを読み込んでくれて講評してくれるじゃない？そんな社会は世の中にないよね(笑)妹島さんと西沢さんと乾さんと大西さんと僕が同時に講評してくれるなんていうのは世の中には存在しないんだからさ。そんな風にみんなが丁寧に読み取ってくれたら、各大学がそういう布陣だったら、仙台みたいな日本一決定戦は存在しないわけじゃない。

それでいうとある種の不幸を君たちは持っている。学内に誰も建築家がいなければ外に出るだろうからね。そういう意味では内弁慶になっているのは教育が充実しているせいっていう矛盾した状況が起きてしまっている。外に出ればいいっていうわけじゃないんだけど、独自のクライテリアを持つというのは本当に大事なことだと思う。

それは教育の難しさだよ。きちんと教育を作っていくべきだけど、放置したほうが伸びる場合もある。自分の尺度を作りたい人は、頑

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

大学では、もっと本質的なことを学ぶべきだと思う。100年変わらない重要なことは何かみたいなこと。大学のエスキスだからこそ、本来のあるべき論を議論すべきで、ついついエスキス時間が長くなる。

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さんご自身の中で教えるということがどのような位置付けにあるのかお聞きしたいです。

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原：教える自分と教えない自分があるって考えた時に、やっぱり教えるってのは意味のあることだよ。でもそれは准教授になったからとか、そういう意味じゃないんだよ。教え合うっていうのかな。お互い教わるというか、お互い教え、教わるっていうのは僕の学生時代からのすごい重要なことで、建築を学び始めた時から重要だったことかな。

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

やっぱり、建築ってよく分からないから、しかも考えなければならぬことが膨大にあるじゃない。だから、お互い教え合うっていうのがすごい大事なことだと思う。それは先輩後輩の間でもあるし、同級生の間でもある。特にコンペに参加するようになってからは余計にそうかな。未来の社会のあり方を提示するっていうのは、めちゃくちゃ難しいこと。卒業設計もそうだけど、わかんないじゃない。議論するしかないし、考えるしかない。それは教育っていうことに近いよね。

あとは、他者に関心を持つっていうことも、そういうことも特徴ではあるような気がするけど。結局、そういうことに興味がある人が大学に戻るっていうのは必然なものであると思う。でも大学の教育を今僕が結構やっているのは、たまたまかもしれない。っていうのもあるよね。都市科学部ができる前はそんなに授業持っていないからね。しんどくなったらやめちゃうかも。

一同：(笑)

藤原：「身体と空間のデザイン」とか、「建築と社会とデザイン」とかは自分にとって大事な研究になっている。あと「デザインスタジオII」も重要。つまり、設計の専門の人たちだけじゃ無い時期が大事だと思っている。

高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

高橋：始まりの爆発力ということですか。

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原：だって設計に行かない人もいるかも知れないし、設計に行くかも知れないし、そこは本当に重要で。僕も横国でなければ、設計に行っていないと思う。自分で考えさせることが多い課題っていうのは、この大学のいいとこだなって思っている。上手い下手じゃ無いっていうか、自分で考えて、自分の専門性を決めさせるっていうのは大事なこと。

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

まあ、あとゼミを一生懸命やってんのは、ちょっとやっぱり、なんとなくこのままだと、横浜国大から面白い人が出なくなるような気がして、それでちょっと取り組んでることではあるよね、去年ぐらいから。その危機感は未だ変わらないけど。だからゼミやる事で変わるかはわかんないけど、少なくとも多少はマシになるだろうと思ってやってるけど。なんか大学っていうものが全国的にすごい弱くなっているとは思うけど、留年してる人もすごい少ないし、なんかベルトコンベアっていうか、あんまりみんな悩んでないっていうか、立ち止まらないっていうか、それをちょっと感じるかな。

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

僕がイメージする大学生ってのはもうちょっと立派なもんなんだよなあ。僕自身も立派な大学生だったかって言われると、そうじゃ無いかも知れないけど、でもなんか、立派でありたいと思いつつ、大学生してたから。

君らの年齢ぐらいから建築をやっているって言えるだけ遊んでるか、言えるだけの時間を過ごしているかどうかっていうのは常に緊張感があつたな。あと他の大学の友達とかもだんだん増えてくるから、早稲田の友達とか東大の友達とか、そういう人と一緒にコンペ出したりとか、一緒に会って刺激を受けたりとか勉強会したり。そこで余計に感じるよね。「何やってる?」「どうやってる?」っていうふうに聞かれるじゃん。もちろん当時仮設建築作ってたから横国でしかやってないことはたくさんあって、それは自慢できたけど、でも仮設建築作ってるからって特別な建築家になれるっていうわけじゃないし。建築の世界におけるプロフェッショナルリズムってやっぱりあるじゃない。そこに向かっていけるかっていうのは気になってたよね。そのためには自分らしく没頭するにはどうするかってことなんじゃないかな。

当時は1つの研究室で5人しか入れなかったからね。1学年で5人しか設計では大学院に行かないっていう時代だったから、強烈に狭き門だったね。でも5人になったからといって建築家になるわけではなかったから、あんまり設計を仕事に食っていくってイメージを持っ

高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

インタビュー風景：FUJIWALABOにて

ている人は少なかったね。時代が違うから今とはまた違うでしょうね。Y-GSAの人たちはみんな、自分は建築家になるって思って入学してくるだろうからそういうつもりでやってるだろうね。ひとつの大学院から18人が建築家になると思って卒業するのは素晴らしいことだと思う。そんな大学は今まで存在していないだろうね。それはすごいことだよ。

でも富永さんとか403みたいにどこにも動めずに建築家になる覚悟を持って大学院時代を過ごすっていうか、それくらいの気持ちを持っていないとダメかもね。

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

例えばさ、403の人達がなんで内弁慶にならなかったのか、ちゃんとみんな研究してみたらいいかもしれないね。あの人たちはなんであんなに開放的なんだろうか。学生のときどうだったかな、他の大学の勉強会とかに参加してた気がする。そういうネットの呼びかけ的なインディペンデントな学びの場に結構積極的に出てたんじゃないかな。そういう反射神経は本当に求められると思う。

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん



あと Y-GSA にきた外部からの人と一緒に勉強会を巻き込んでやったりとか、そういうのも積極的にやってた気がするな。そういうのも良かったのかもね。みんなそれぞれ立場がいろんな場所にいるから余計に学年としての企画力を活かせれば、そういう内弁慶感は減ってくるかもしれない。他の大学行く人もいるんでしょ?そういうネットワークがより活かされればいいと思うけど。

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

春から普通になってるはずだから、逆にみんなは言い訳ができない(笑) コロナのせいだって(笑) 頑張ってください。

藤原さん、高橋さん、阿彦さん、正林さん、高橋さん、前本さん、八木橋さん

一同：頑張ります。今日はありがとうございました。

一同：(聞き手) 阿彦、正林、高橋、前本、八木橋